

第1回 秋田市エイジフレンドリーシティ構想推進協議会 議事録

日 時：平成22年7月2日（金） 15時00分～17時00分

場 所：秋田市役所 2階 会議兼応接室

委員の定数：9人（別紙のとおり）

出席委員：9人

1. 開会

2. 秋田市福祉保健部長あいさつ

3. 委員紹介

4. 会長、副会長選任

会長に山口 邦雄委員、副会長に大塚 妙子委員を選出した。

5. 議事

（1）秋田市エイジフレンドリーシティ構想の推進について

事務局で説明

委 員	高 齢 者 の 定 義 は 何 歳 か ら な の か ？
事 務 局	WHOでは、60歳以上としているが、秋田市では行政上65歳以上とし、高齢化率等を算定している。
会 長	エイジフレンドリーシティは、バリアフリーとノーマライゼーションとどう違うのか？
事 務 局	バリアフリーに関してはハード的な側面が大きく、WHOのプロジェクト8項目（資料1参照）では1～3が該当するが、新たにソフト的な要素として4～8の項目も包摂する形で、複数の施策体系を取り込んでいることが特徴と考える。
委 員	エイジフレンドリーに関する書籍には姫路市の事例が頻繁に出てくるが、姫路市では既に実施しているのか。
事 務 局	各委員には、事前に参考書籍を配布しているが、その中にWHOがエイジフレンドリーシティガイド作成のために実施した世界22か国での聞き取り調査内容について説明があり、日本国内で調査対象となった姫路市と東京の高輪地区について記載がある。WHOでは直接、大学教授などの研究者の方に依頼し、自治体等の協

		力を得て調査が実施されたと聞いている。ガイド発表後、姫路市と高輪地区の自治体では、エイジフレンドリーシティという考え方を取り入れた施策の実施等に行っていないようだ。
会 事	長 務 局	秋田市が全国初の取り組みになるのか。 調べた限りでは、他で取り組んでいる例はないようなので、そうなる。
事 務	局	エイジフレンドリーシティという言葉は、外国人にとっては響きがよく、高齢者になることを肯定的に受け止めた良い言葉だとWHO関係者から話を聞いた。横文字であるため、秋田の高齢者にとっては優しくない言葉だというご意見もいただくが、今後こういった言葉が世界的に広がり、いろいろな都市で取り入れられていくことを考えても、グローバルスタンダードであるのご理解いただきたい。
委	員	秋田の高齢者にとっては確かに優しくない言葉である。この言葉を使うことは結構だが、「エイジフレンドリーシティ（高齢者にやさしい都市を作ろう）」と並列して表現した方が、秋田の高齢者にもわかりやすいのではないかと。
会	長	エイジフレンドリーシティという言葉はまだ浸透しておらず、日本語が追いついていないのかもしれない。今後この協議会で高齢者の人にわかりやすく、受け入れやすい言葉を議論して行くことができれば、それも意義のあることと思う。

(2) アンケート調査、聞き取り調査の実施について

事務局で説明

会	長	確認だが、このアンケート調査と聞き取り調査の結果が、次回推進協議会の議論の資料になるのか。
事 務	局	そのとおりである。
委	員	アンケート対象者のうち、要支援1,2の認定を受けた人は車の運転ができるかどうかは非常に微妙なケースがあると思う。 また近年は高齢者が免許を返納する人も増えていることから、移動手段を車に限定せず質問をする必要があるのではないかと。

事務局	アンケート調査では、交通機関については自家用車に関する設問しかないが、聞き取り調査では、公共交通機関の良い点、不便な点、高齢者ドライバーについてなど幅広く意見を収集する予定である。
委員	アンケートの問7の参加しなかった理由で“3. 忙しい”とあるが、具体的には介護か子育てのどちらかと思う。忙しい理由まで聞く必要はないのか。
事務局	設問および回答選択肢は、3つの調査対象とも同じであるため、対象者の年齢が幅広く、忙しい理由として子育てと介護以外も考えられる。アンケート調査では、そこまで回答選択肢を増やすことは難しいため、このような形とした。
委員	アンケート内容についてはもう変えられないのか。
事務局	既に発送準備が進んでいることから、内容変更は難しい。
委員	例えばボランティアでも有償と無償が考えられる。労働も有償労働と無償労働に分けられるのため、そこまで区別して調査する必要があるのではないか。また高齢者にとって一番大事なことは何かを確認することも重要ではないか。
事務局	今後聞き取り調査でできるだけ、確認していきたい。
委員	<p>以前福祉計画を作成する際にワークショップをおこなったら、除雪についてかなり多くの意見が寄せられた。</p> <p>そのときのケースで、高齢者世帯や障がい者の方から、”歩くことは大変だが、車を運転しての外出は可能だ” “車は運転できるが、車庫までの雪が寄せられないため外出が出来ない”などの意見が寄せられた。しかし、雪寄せをお願いしたい世帯は多いのに、秋田市では残念ながらボランティアを募集してもあまり集まらなかった。これからますます高齢者世帯が増える中、各家庭での対応は難しくなっており、何か良い方策がないものかと思っている。聞き取り調査では、ぜひこうした除雪のことも聞いてほしい。</p> <p>次に、アンケート調査結果は8月下旬にまとまるということだが、第2回の推進協議会では、既に中間報告（案）をまとめることとなっている。せつかく市民に対してアンケートを実施するの</p>

		であれば、もう少しアンケート結果を反映できるようにはならないのか。
事	務	局
		アンケート調査結果については、8月末日に報告書ができ次第、報告させていただく。9月末には中間報告をまとめる予定だが、次期総合計画との調整もあるため、こうしたスケジュールとなっている。しかしその後も修正などは、できるだけきめ細かに、情報提供しながら対応していく。
委	員	
		ひとつは除排雪についてで、他の委員からも意見があったが、除雪車が通った後は家の前に大きな壁ができてしまう。業者に対して適切な指導を行うなり対策を取ってほしい。 次にアンケート調査についてだが、元データを見ていろいろと分析してみたいと思ったが、外部委託であればそう言うことも難しい。私としては、出来れば元データを見ながら、どういったクロス集計を行い分析していくかということも、実際にこの会議でやっていきたくかった。
事	務	局
		具体的なクロス集計や分析方法については、これから委託業者と随時打ち合わせを行いながら進めるので、業者にお任せという形にはならない。またアンケート調査票の最後には、自由記述欄があり、これらは分類しながらそのまま掲載していくので、元データと変わらない形でみなさまに見ていただけると考えている。
会	長	
		アンケートの内容を見て、これとこれが相関関係にあると三浦委員の中ではお考えがあるようなので、分析方法などについて事務局に提案してみたらどうか。
事	務	局
		事務局としても、そういった提案があれば対応する。
委	員	
		秋田の現状として、買い物で困っている人が多いと感じる。新屋の方に話を聞く機会があったが、食料品やちょっとした日用品が買えなくなってきたと話していた。買い物難民という言葉もあるが、こういった点に注目していきたい。 また、高齢者の中には、歩くよりも自転車での移動の方が楽という人も多く、自転車に乗れない日は外出に困るそうだ。自動車だけでなく自転車も視野に入れていきたい。
会	長	
		アンケート調査対象のうち、高齢者は65歳以上で要支援1，2までの方としているが、エイジフレンドリーシティ構想の中で

		は、福祉サービスを必要とする人については考えないということか。あるいは別で対応するということか。
事務局		8項目に交通機関や屋外スペースが含まれていること、また事前点検で、8項目のうち社会参加、市民参加や雇用と言った項目について、市民のニーズや評価に関するデータが少なかったため、アンケート調査ではそれらに関する質問が多い。そのためできるだけ外出可能な高齢者から回答を得る必要があり対象をこのようにした。なお、福祉サービスのニーズ等については、聞き取り調査で「高齢者を介護している家族」を対象グループのひとつとしているため、そこでカバーしていきたい。
委員		これからの時代は団塊の世代が、ボランティア、社会参加などに大きい影響力を持ってくる。聞き取り調査では、ぜひ団塊の世代のボランティア、社会参加に関する意識にスポットをあてた聞き取りをしてもらいたい。私はエイジフレンドリーシティとは、障がいのある方もない方もみんなが幸せに暮らせることだと解釈している。これからは単なる自立だけでなく、自律—自らを律することができる—ことが重要になってくると思う。
会長		聞き取りの際には、困っている点や場所などについて、具体的な写真を撮り、報告書に掲載するとわかりやすいので、参考にされたい。

(3) 意見交換

事前に意見交換テーマについて資料配付し、各委員が意見を述べる。

- ・ 秋田市の現状についてどう感じるか
- ・ 秋田市が一番弱いと思う項目はどれか

委員		私は、高校卒業後、長く県外にいて旅行会社に就職し、海外での生活経験を経て数年前に秋田に戻ってきた。秋田市にこうあってほしいという気持ちが強いためか、まだまだと感じる。また以前配布されたエイジフレンドリーシティ勉強会報告書での現状評価も、私からすると甘く感じられる。次期総合計画に盛り込まれるとのことだったが、5年でまちはそう変わらない。30年、50年のスパンで行政と市民と一緒に考えていく取り組みにしなければいけないのではないか。 秋田市は高齢者にとって十分に安全で快適に暮らせる街とは言えないと思う。例えば、歩道の狭さ、冬の雪の問題、買物も店が少なくて限られる。更に高齢者が散歩しても楽しい街ではなくな
----	--	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

っている。千秋公園は良い公園だが、高齢者には坂がきつく、優しいとは言えない。ニューヨークのセントラルパークのようにあらゆる世代が憩うことのできるような環境があればと思う。

協議会のスケジュールについてだが、大変短いスケジュールで、総合計画の中に盛り込んで、達成するためには大変厳しい日程だと感じている。

会長 スケジュールについては、本年度まとめる提言については、提言の第一弾と捉え、次に繋がるように考えていってはどうだろうか。

委員 雄和の（有）華の豆会という会社で、豆腐づくりやレストランなど地産地消に取り組んでいる。スタッフの平均年齢は60代で、自分たちの世代が一番元気だと感じる。私の会社では定年制を設けていない、農業なども定年がない。働ける場所がありどんどん出て行くことが大切なのだと思う。エイジフレンドリーシティ構想には、社会参加という項目があるが、雄和地区には国際教養大学があり、学生と地域住民の交流がある。前身のミネソタ州立大学が設立される当初は、地域の反対もあったが、積極的に地域の住民と学生が交流できるよう努力した結果、現在では地域の中に大学が溶け込み、大学のおかげで地域全体も明るく活発化した。

高齢者だから何かをしてもらうというのではなく、高齢者自らが出て交流することが大切で、そういった場づくりが何よりも必要ではないか。できることから小さな輪を広げていくことが大切だと思う。

委員 秋田市には、絆がなくなっていると感じる。悪いイメージのある雪については、普段顔を合わせない近所の人と雪寄せの時に顔を合わせ会話でき、悪いことばかりではないと感じる。マイナスを言うときりがないので、いいところをエネルギーにしていく必要もあるのではないか。

ワールドゲームズや秋田わか杉国体では、高齢者がボランティアとして参加するなど元気に活躍していた。活動する場や出て行く場さえあれば、秋田人はノリが良いので、NPOなり雇用なり地域づくりなりに参加してもらうことができ、エイジフレンドリーシティの実現にも有効と思う。そのためにも冬期間をどのように過ごすかは大事で、高齢者の方が引きこもらないように、多少お金をかけてもよいので、きめ細やかな除雪を行ってほしい。

委員 私は70歳を超えているが、車を運転できるので、秋田市は住

みよいと感じている。

秋田市の住み心地の良さについて総務省統計局のデータに基づき調べたところ、県民所得は全国41位であるが実収入は4位(個人の収入は少ないが1世帯当たりの収入が多いことを示す)、1世帯当たりの消費支出全国10位、小遣い全国2位、持ち家率全国2位など、全国的にみても上位に位置し、裕福と言える。

このような結果から、一見住み心地が良いと言えるが一方で問題もある。

車社会となり、車がない人は路線バスを利用するにも不便な場合が多い。一番問題となるのは日常生活用品などの買物である。

秋田市内に住む高齢者から聞いた話で、バス停まで遠いため家からバス停までタクシーを利用し、買物した物も重いので有料宅配サービスを利用するそうだ。こうした買物問題には、各福祉施設がデイサービスなどで使用している送迎用福祉車両を、空いた時間に高齢者の買物支援などに利用するなど、きめ細やかなサービスを考えていかなければならない。

委

員

エイジフレンドリーシティ構想で一番良いと感じていることは、高齢者に対するとらえ方、イメージを塗り替えるという点である。

先日、おばあさんが若い頃の夢を実現して起業するというストーリーの映画を観て、80歳を越えても夢を持ち、実現する素晴らしさに感動した。若い世代が高齢者に対する意識を変えるだけでも、ずいぶん違うと思う。ギャラリーやイベントの仕事で、多くの高齢者の方と接する機会を持つようになり、高齢者に対して、実に知的で、私たちの人生の先輩なのだと感じるようになった。まずは一緒に活動できる場づくりがとても大事だと思う。活動を通して相互理解し、イメージが塗り替えられることに期待している。

また買物の話が出たが、お客様から来てもらうのを待つのではなく、若い私たちが出向いていかなければと感じている。しかしイベントで移動販売を企画しても、特に食べ物を扱う場合は規制が大変厳しい。何とか移動販売の規制をもう少し緩和できないだろうか。リヤカーで野菜などを売りに行くと、とても喜ばれる。これは、単に家にいながら買物ができる便利さだけでなく、販売をツールとしたコミュニケーションがもっとも重要な点だと思う。エイジフレンドリーシティ構想は、そういう方向に向かってもらいたい。

委

員

車いす専用駐車場はだいぶ整備されているが、実際車いすの方がそのまま買物できるお店は果たしてあるか。私を知る限りでは、店に入っても車いすにカゴが乗せられないところが多く、唯一そ

のまま買物できるお店は市内に1か所しかない。今後、各店舗で一台ずつでも備え付けがあれば、車椅子利用者やその介護者が買物しやすくなる。

次に市内の道路にはベンチが大変少ない。せめて、バス停にくらいはあればと思う。

行政に対するお願いとしては、各手続きのために窓口を行き来することなく、1か所で用事がすむようにしてほしい。世田谷区ではまちづくり情報サービスとして既に取り組んでいる。

ボランティアをしたいけれども、どう活動したらよいか分からない人は多いので、積極的に活用できるように、市の業務にもボランティアを積極的に活用してほしい。そうすれば、外部委託のコスト削減になるし、ボランティアの活躍の場もできる。

会

長

今日は意見交換なので、必ずしも系統だった話し合いにならなくとも良いと思っている。非常に多くの意見をいただいた。エイジフレンドリーシティはWHOの発想だが、秋田市にとってのエイジフレンドリーシティを考え、みんなが共有できる将来像を持つことが必要だと思う。今日の意見交換から、秋田の場合、雪の問題、車社会であること、そして高齢化と共に人口減少しているという点は宿命的であり外せないようなので、ここから秋田市なりのエイジフレンドリーシティの将来像を見つける必要がある。また、元気で活躍する高齢者のお話や、交流の場をつくりコミュニケーションが必要だといったところが重要な点であったように思う。

(4) その他

委

員

事務局にお願いしたいのだが、今の60代、70代は非常に元気なので、高齢化を前向きな捉え方をしたい。そのためにも、秋田市の現状についてはできるだけデータを提供してほしい。

委

員

会議の場以外でも情報交換など交流の場をもちたい。

委

員

ある老人クラブでは、参加率が非常に低かったのに労賃を出すようになったら、参加率が良くなり活動が活発になったと聞く。秋田では、高齢の男性がなかなか集まりにくいので、どうやったら場に集まるか、工夫する必要があると思う。

定年退職後、休耕田になっている土地を借りて、農業に取り組んでいるシニアの方も多いと聞くが、食べきれないくらい野菜が

できるそうだ。単に趣味の野菜作りで終わらせるのではなく、そういったものを販売ルートにのせる取り組みを行うなど、うまく循環するようなシステムを作ることも必要なのではないかと思う。

会 長 大変良い事例をいただいた。今後もこうしたいろいろな事例や各委員の活動情報を、どんどん提供してもらいたい。お互いの発言のバックグラウンドが理解しやすくなってより活発な議論ができると思う。そうした情報はぜひ、電子情報でも紙媒体でもよいので、事務局に取りまとめてもらい、各委員が情報共有出来るようにすればよいと思う。事務局に調整してもらいたい。

事 務 局 了解した。

6. その他

次回開催について、9月下旬を予定。